

施設入所児中、問題児の生活治療の 技術にかんする研究

——幼稚園児における問題行動の追跡的研究——

研究第9部 多 勢 豊 次※

昭和43年に調査したと同じ幼児の母親に、問題行動にかんする質問紙および社会性にかんする質問紙を配布し、評価してもらった。その結果、質問紙作製上、不必要な項目と必要な項目、問題とみなされない行動とみな

してもよい行動、1年後における問題行動の変化がより明らかにされた。(前回の研究にかんしては、当研究所紀要第4集を参照のこと)

I 目 的

前回においては、全くチェックされない項目と、反対に多くチェックされた項目が抽出され、又、社会性の高低と関連のある項目も抽出された。そこでこの度は、こ

れらの項目が、約1年の保育期間を経た後に、どのように変化して行くかを追跡して、項目の選定にさらに考察を加え、同時に保育効果の検討も行なおうと試みた。

II 方 法

前回と同じ幼児72名の母親に、再び幼児行動調査表および行動評価用紙を配布し、チェックしてもらった。た

だし、回収は65名であった。記入日は昭和44年3月である。

III 結 果

1. 全くチェックされなかった項目にかんしては、入園当初および入園1年後(以後、1回目および2回目と呼ぶ)の両方にゼロのもの、1回目のみにゼロのもの、2回目のみにゼロのものに分類した(第1表)。
2. 数多くチェックされた項目にかんしては、1回目および2回目の両方に多いものを選出した(第2表)。

3. 1回目および2回目間において増減のはげしいものを選出した(第3表)。
4. 低社会性グループおよび高社会性グループに多い項目にかんしては、両回に多いもの、1回目のみに多いもの、2回目のみに多いものに分類した(表4)。(低グ18名、中間25名、高グ16名。ただし6名は回収なし)。

IV 考 察

1. 質問紙作製上、不必要な項目および必要な項目。
 - 1) 不必要な項目は第1表におけるごとく、特に両回において全くチェックされなかったもの、1回目のみにチェックされなかったもの(ただし、※印のものは2回

目に比較的多くチェックされたので除く)、および2回目のみにチェックされたもの(ただし、※印のものを除く)と考えられる。

- 2) したがって必要な項目は上記以外のもの全部である。特に大事な項目は第3表の増減のはげしいもの、および低社会性、高社会性グループに多いものである。第2表の両回に比較的多いものは、一般によく見られるというだけで、特に大事な項目とはいえないかも知れない。

※ 本研究にあたり、調査に御協力下された多数のお母さん方、白梅幼稚園の久保田浩園長ならびに諸先生方、および資料の整理に当たっていただいた立教大学生、三谷真理子さんに心から感謝いたします。

第1表 チェックされなかった項目

	行 動 ・ 性 格	神 経 症 的 習 癖	身 体 症 状
両 回 に お い て	かげ口をいう 協力しない 持続できない 大げさにいう 子供らしい処がない 赤ん坊じみてる 年下の子供とでないと遊べない よく嘘をつく 物を盗む 家のものを持ち出す 残酷なことを好む 人のものを奪う 悪い遊びをする 大人にばかり相手をしてもらいたがる	食べ物でないものを欲しがる 夜中に歩いたりする	胸がドキドキするという 急に脈が早くなる 気を失う ひきつけや発作をおこす 手足のふるえることがある 手足のしびれることがある 目をパチパチさせる ほほをピクピクさせる 鼻をクンクンさせる 肩をピクピク動かす 首をよくふる 急に目が見えなくなる 急に耳が聞こえなくなる 急に声がでなくなる
一 回 目 の み (カ ッ コ 内 は 二 回 目 の 数)	仲間はづれにする (1) 悪口をいう (1) 大人からはなれない (1) みなの前に出たがらない (1) ※友だちがない (3) ※いつも遅れてしまう (6) ※みなのように行動できない (3) 感情を表わせない (1) 自分からはじめない (2) 人の後にばかりついて (2) ピクピクしている (1) 気嫌が直らない (2) かわい気がない (1)	下腹部をこする (1) ※性的なことをよく口にする (3)	めまいを起こしやすい (2) 胸が痛いということが (1) 昼間もらしをする (1) 大便をもらす (1) たえず体をゆする (1)
二 回 目 の み (カ ッ コ 内 は 一 回 目 の 数)	(1) よく他をすぐに批難する (1) いじめる (2) わざと口をきかない ※(4) 赤ん坊のようにしたがる (1) 返事ができない (1) 人見知りがはげしい (1) なかなか始められない (1) 変に大人びている (1) 甘えようとしてない (2) 買い食いをする (2) やたらに物をこわす	※(3) むやみに食べる (1) 眠りが浅い (2) 物音などで目を覚ましやす	(1) 少しのことで青ざめる (1) 飲んだものを口にもどす

2. 問題とみなされない行動とみなされる行動。

1) むしろ望ましいとさえみなされる項目は、高社会性グループに多いもので(第4表)、特に両回ともに多いものである。

2) かならずしも問題とみなされない項目は、第2表、

第3表において○印のもの(低社グ・高社グに属している以外のもの)である。

3) 問題とみなされる項目は、低社会性グループに多いもので、特に両回ともに多いものである。

3. 入園当初時と入園1年後における問題行動の変

第2表 増減は少ないが、両回に比較的多いもの

〔カッコ内はそれぞれ1回目と2回目の数。また、被調査児数の比率によって、行動・性格の1回目は14、2回目は13、習癖は15と13、身体症状は10と9以上とした。〕

行 動・性 格	神 経 症 的 習 癖	身 体 症 状
☐ (33-29) 甘える ☐ (31-23) くやしがる ☐ (26-19) はしやぎやすい ☐ (24-22) ふざける ☐ (23-16) 思い通りにしようとする ☐ (22-22) 要求を通そうとする ☐ (22-16) 恥かしがる ☐ (20-16) すねたり、ふくれたりする ☐ (16-12) 用心深い ☐ (15-13) 神経質である ☐ (14- 8) おちつきがない ☐ (11-15) しつこい	☐ (23-20) 食事の量が少ない ☐ (21-18) 食事が長くかかる ☐ (16-14) 声がかん高い ☐ (16-13) 鼻をほじくる	☐ (13-11) よくかゆがる

第3表 両回に多い、少ないにかかわらず、増減のはげしいもの

〔カッコ内は同じく1回目と2回目の数。順位は増減率順。上段は減少、下段は増加したもの。(増減率1σ(8.7%)以上を選んだ。)〕

行 動・性 格	神 経 症 的 習 癖	身 体 症 状
☐ (22-11) おしゃべりである ☐ (23-13) やってもらいたがる ☐ (14- 6) 強情である	☐ (15- 5) 一人言をよくいっている ☐ (10- 3) ねぼける	☐ (11- 3) よく汗をかく ☐ (12- 5) 便秘しやすい
☐ (13-22) 気が小さい ☐ (3-12) ものごとを気にする ☐ (7-15) 一番になりたがる ☐ (3-11) いくじがない ☐ (4-11) グズグズしている ☐ (1- 7) 主張や反抗をしない ☐ (10-15) きちようめんである		☐ (6-14) 乗物などに酔いやすい ☐ (10-15) かぜを引きやすい

化。

1) 入園1年後に多く減少したものは第3表上段の項目である。又、第1表の赤ん坊のようにしたがる、むやみに食べる、も含める。

2) 入園1年後に多く増加したものは第3表下段の項目である。又、第1表の「いつも遅れてしまう」、「友だちがない」、「みなのように行動できない」、「性的なことをよく口にする」の4つも含める。

3) 第2表、第3表における項目の増減をみて、年齢差の要因よりも、幼稚園生活の経験という要因の方を重視したい。すなわち、(1)第1表「2回目のみ」の「赤ん坊のようにしたがる、および第3表上段の「やっても

らいたがる」の減少は依存性の軽減を示している。(2)第3表上段の「おしゃべりである、独り言をいっている」の減少は社会的言語行動の増加を示している。(3)第3表上段の「強情である」の減少は社会的態度の成長を示している。(4)第1表「1回目のみ」の「友だちがない、いつも遅れてしまう、みなのように行動できない」が新しく出現したこと、および第3表下段の項目(「一番になりたがる」を除いて)は新しい生活環境における非社会的問題行動の増加を示している。(5)第3表上段の「ねぼける、よく汗をかく、便秘しやすい」の減少について、および「乗物などに酔いやすい、かぜを引きやすい」の増加については、十分な医学的考察が必要だが、

第4表 低社会性グループあるいは高社会性グループに多い項目

〔選択基準は前研究と同じく、全体のチェック度が少ないばあいは3:0（または0:3）、あるいは4:1（または1:4）以上とし、チェック数が多いばあいは、一方が他方の2倍以上とした。〕

	低社会性グループに多い項目	3グループ毎の チェック数			高社会性グループに多い項目	3グループ毎の チェック数		
		低	中	高		低	中	高
両回 において	すねたり、ふくれたりする	6	14	0	反抗する	1	7	4
	恥かしがる	6	8	2	おしゃべりである	0	5	3
		9	12	1	夢などを見て泣き叫ぶ	2	12	8
		7	8	1		1	5	5
一 回 目 の み	甘える	14	13	6	よくケンカをする	0	5	5
	自分から話しかけられない	4	4	0	ボスやリーダーになる	0	1	5
	依頼心が強い	4	1	0	気が散りやすい	1	6	5
	新しいことをあまりしない	3	1	0	早口にしゃべる	1	6	4
	マネが多い	4	4	1	暗い処では眠れない	1	1	4
	恐がりやすい	5	5	1				
	気が弱い	6	4	2				
	偏食が多い 気分によって食べなかったりする	7 6	5 6	2 2				
二 回 目 の み	強情である	4	1	1	要求を通そうとする	3	11	8
	命令をしたがる	4	2	1	おせっかいである	0	5	3
	主張したり反抗したりしない	5	1	1	自慢をする	0	2	3
	大人しい子としか遊べない	3	3	0	年上の子とばかり遊びたがる	0	3	4
	グズグズしている	6	4	1	場所が変わると眠れない	0	1	3
	心配しやすい	5	5	1	早口にしゃべる	0	2	3
	人目を引きたがる	3	2	0				
	いつまでもいい張る 声がかん高い	4 5	3 8	1 1				

一応、新しい刺激状況にたいする身心のホメオスタシスの問題とみなすことができよう。

4. 以上のように、比較的正常と思われる幼児における問題行動の現われ方とその変化について、入園1年後

の追跡により、ある程度明らかにされはじめたが、さらに入園2年目の調査によって、より明らかにして行きたい。

A Longitudinal Study of the Behavior Disorders in Preschool Children

Dept. 9 Toyoji Tase

The three purposes of this study were (1) to select the appropriate items, in making a Child Behavior Inventory, (2) to discover the normal and/or desired behaviors of children which the mother once evaluated as 'abnormal and/or undesired' ones, and (3) to follow up the changes of the behavioral characteristics of children after one year's Kindergarten life.

Shortly after seventy-two children entered the kindergarten, their mothers were given the Inventory divided into three categories, such as, personality problems, neurotic habits, and somatic syndromes. They were required to check either "yes" or "no" for each item. They were also given in Kindergarten an Adjustment Scale which used the S-point ratings in each question. One year later, all the mothers (apart from seven dropouts) were asked to reevaluate their children's behaviors in the previous Inventory and Scale.

A Score on the Inventory was obtained by summing up the number of items checked "yes". Besides, according to the assessment of the Scale, the children were classified in the High-Adjustment Groups and Low-Adjustment Groups.

Though the findings are far from clearcut, the present data suggest: (1) About 30 items in the Inventory were not checked "yes" at both times, and about 40 items at the first or second time. These items, therefore, seem to be eliminated from the questionnaire.

(2) The items typical of High Adjustment Group cannot be evaluated as "undesired" behaviors.

(3) While the degree of immature behaviors (e. g. "dependent", "stubborn", "self-talk" etc.) have decreased after one year, that of maladaptive behaviors (e. g. "withdrawal", "nervous", "passive" etc.) have increased.